

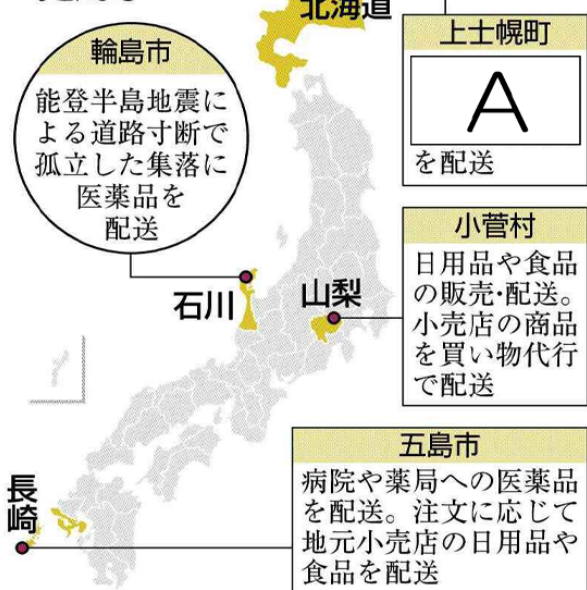


年 組 名前

# 道新ワークシート

## ドローン配送の例

※国土交通省の資料などによる



## ドローンによる配送

# 離島や中山間地 サービス始まる

過疎地などで「ドローン」による配送が始まっています。物流業界は人手不足が深刻化しており、「切り札」になり得るとの期待があります。



Q ドローンとは。  
A 遠隔操縦や自動で飛行する小型無人航空機です。プロペラ

ラが風を切る音がハチの羽音と似ており、英語で雄のハチを意味する「drone」が語源とされます。

Q 飛行は「レベル」が設けられていると聞きます。

A 政府は運用方法によりレベル1〜4に区分しました。レベル1は人が目視する範囲で操縦飛行し、2は同条件で自動で飛びます。3は目視しないで無人地帯を自動飛行します。さらに2022年施行の改正航空法

で、住宅地など有人地帯上空を目視外で飛ぶ「レベル4」を解禁しました。

Q ルールは。

A 墜落して人や物に当たらないよう安全が重要です。操縦免許や機体認証の制度を創設しました。レベル4については飛行ごとに国土交通相の許可、承認が必要です。

Q どのように活用されていますか。

A 交通の不便な地域などの物流分野で進みつつあります。背景は主にトラック運転手の不足です。4月以降は運転手の残業規制が強化され、1人当たりの運べる荷物が減って物流が停滞する「2024年問題」が懸念されます。ドローン導入で人口の少ない過疎地でも効率的に運べる」と期待されています。

Q 具体的にはどうですか。

A 一部の離島や中山間地を中心にサービスが始まっています。例えば十勝管内上士幌町では住民の注文に応じて日用品や

食品を、長崎県五島市では医薬品や日用品を、それぞれ配送する事業が展開されています。

Q ほかに。

A 能登半島地震では石川県輪島市で、孤立した集落への医薬品配送に活用されました。いずれのケースも、現段階では住宅地上空を避けた飛行がほとんどです。一方でレベル4を見据えた試行の動きもあります。

Q 物流以外の使用例はどんなの。

A 地上の撮影や、畑での農薬散布などがあります。高架橋やダムといったインフラの点検、工事現場での測量、災害被害調査でも用いられています。

Q 課題は何ですか。

A 物流でのドローンの本格活用は、長距離飛行や大型荷物搬送が可能な機体の開発が重要です。多くのドローンが飛び交うようになると、ドローン同士やヘリコプターなどの衝突のリスクが高まります。騒音を心配する声も出ています。



年 組 名前

---

# 道新ワークシート

① ドローンの飛行にはレベルが設けられているが、次のような方法で使用する場合は、どのレベルにあたりますか。算用数字で答えなさい。

◎ 自分の家の敷地内から10キロ離れた場所へ、無人地帯を飛行させて物資を届けた。

② 記事を読み、空欄Aに当てはまる部分を12字で抜き出して、文を完成させなさい。

③ あなたの住む町でドローンによる配送を行うとした場合、記事の内容を踏まえた上で、賛成か反対のどちらかの立場に立って、あなたの考えを書きなさい。